

外国語科学習指導案

日 時 令和4年11月18日(金)
第4校時 11:50~12:40
対 象 2年C組 (38名)
場 所 本校2年C組教室

1 単元名

“How Good Is Your Memory?”

教科書：“Revised BIG DIPPER English Communication II”

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

本文の内容を踏まえ、自分が実践したい記憶法についてJTEやALTとやりとりすることができる。

(2) 単元の評価規準

| | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------|--|--|---|
| 評価規準 | <p>【知識】 ・関係詞代名詞 what をやりとりの中で正しく用いることができる。【話す力(やりとり)】</p> <p>【技能】 ・順序や根拠を表すために必要な表現を理解している。【話す力(やりとり)】</p> | <p>・読み手が理解しやすい資料を作成し、記憶法に関する概要の説明と根拠を述べることができる。【話す力(やりとり)】</p> | <p>・資料の作成や記憶法の紹介を行うにあたり、読み手が理解しやすい工夫をしようとしている。【話す力(やりとり)】</p> |

3 指導にあたって

(1) 教材観

アカデミックな分野から身近な話題が幅広く網羅された教材であり、単元に合わせて多様な言語活動が設定できる可能性を秘めている。コンテンツについては「読む」能力にフォーカスされているため、4技能のバランスについて考慮し、現在は独自にハンドアウトを作成し、指導している。

文章の難易度は中程度である。単語数が少ないため、習熟度の高い生徒にとってはすぐに読解が終わり、学力の伸長という観点では別途レベルの高い教材を与える必要がある。しかし、集団全体に対する指導という観点では中庸をとっており、本校の実状に合致している。

(2) 生徒観

本校は所謂進路多様校であり、偏差値帯は38~60以上と幅広い。そのため、入学当初より大学進学を見据えた生徒層へのハイレベルな指導と、中学校段階の学習内容が定着していない生徒層に対する学び直しの指導という二律背反の方向性を両立させる必要がある。

また、本校2年次生徒全体に共通していることは、こと英語に関しては知識の「習得」に終始していることである。そのため、今後の学習を通して知識の「活用」にシフトしていく必要がある。しかしながら、非常に素直な性格の生徒が多く、言語活動そのものは全員が積極的に取り組むことができる。

(3) 指導観

前項(2)で述べたように本校生徒は学力の幅が大きいため、指導のレベルについては習熟度の低い生徒に対する「学力の底上げ」に焦点を当てている。また、成績上位層についても、グループワークを行った際に Student Teacher として役割を与えることで、理解の深化を図っている。

一方で、思考・判断・表現の領域については課題があり、言語活動においては指示された事柄については主体的に実行できるが、特に「判断・表現」の部分で困難を抱えている生徒が多い。そのため、2年次後期からはリテリング等の活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

4 単元の指導と評価の計画（計 13 時間）

| 時間 | ねらい（■），言語活動等（丸数字） | 評価の観点 | | | 備考 |
|--------------------------------|---|-------|---|---|----------------------------|
| | | 知 | 思 | 態 | |
| 1 (1) | <p>■ これまでに自分が実践した記憶法について考察する。</p> <p>① これまでに実践した記憶法を書き出す。</p> <p>② グループで記憶法の効果について発表し合う。</p> | | | ○ | 本単元のルーブリックを提示し、目標の共有を行う。 |
| 9 (2) (3) (1) (0) | <p>■ 読解を通して効果の高い記憶法について理解する。</p> <p>① ペアで身近な話題について、短いやりとりを行う。</p> <p>【帯活動】</p> <p>② 本文を読解する。</p> <p>③ ディクテーションを行い、結果を確認する。</p> <p>④ リテリング活動を行う。</p> <p>Part. 1 - Part. 4 の読解については1パートあたり2時間を目途として、進める。（1単位時間）</p> | ○ | | | リテリング活動の振り返りを行い、評価する。 |
| 13 (3) (1) (1) (3) | <p>■ 教師と記憶法に関するやりとりを行う。</p> <p>① 自分がおすすめしたい学習方法について作文を書く。</p> <p>② 作文をもとにポスターを作成し、インタビューテストの練習を行う。</p> <p>③ JTE、ALT とのインタビューテストを行う。</p> | | ○ | ○ | JTE、ALT とのインタビューテストで評価を行う。 |

5 パフォーマンステストの実施計画

| 領域 | ■ 話すこと [やり取り] □ 話すこと [発表] □ 書くこと |
|-----------------|---|
| 関連する Can-Do リスト | 第2学年 日常的な話題について、質問に答えたり、自身の考えや気持ちを話し合ったりすることができる。 |
| 実施内容 | 本文の内容を踏まえ、「自分が実践したいと思う記憶法」について、JTE または ALT とやりとりを行う。 |
| 実施方法 | <p>実施方法</p> <p>1. 「自分が実践したいと思う記憶法」について教師に対して述べる。</p> <p>2. 教師が質問を行い、それに返答する</p> |

■ 採点の基準

○「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」についての3つの条件

条件1：自分が実践したい記憶法について、それを選択した根拠を述べた。

条件2：自分が実践したい記憶法について、その方法論を簡潔に述べた。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--------------------------------|-------------------|
| A | ・語彙や表現に優れ、すべての説明が理解できる。かつ、説明の中で関係代名詞 what を正しく用いている。 | ・2つの条件を満たし、かつ図を用いた資料で説明を行っている。 | ・全ての条件を満たそうとしている。 |
| B | ・関係代名詞 what の使い方にエラーがあるが、語彙や表現に優れ、すべての説明が理解できる。 | ・2つの条件を満たしている。 | ・2つの条件を満たそうとしている。 |
| C | ・B以下 | ・0～1つの条件を満たしている。 | ・1つの条件を満たそうとしている。 |

6 本時の展開 (12/13 時間目)

(1) ねらい

- ・本文の内容を踏まえ、自分が実践したい記憶法について JTE や ALT とやりとりすることができる。

(2) 展開

| 過程 | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 指導上の留意点 |
|-----|---------------------------------|-----------------------------------|--|
| 導入 | 帯活動 | ペアになり、身近な話題について短いやりとりを行う。 | ペアワーク終了後、2名程度を指し、即興でのやりとりが出来ているか確認する。 |
| | 資料返却 | 前時に作成した作文の添削結果を確認する。 | 添削結果を受け、本時のポスター作成に反映させることを確認する。 |
| 展開 | 【ねらい】ポスターを作成し、自分が調べた情報を紙面にまとめる。 | | |
| | 作業(10分) | ワークシートの表面に説明用の資料を記載し、裏面には原稿を記入する。 | ループリックを再提示し、パフォーマンステストを見据えた資料作成を促す。 |
| | ペアワーク | 自分が作成したポスターをもとにパートナーに対して説明を行う。 | 1人1分間程度の説明を4ラウンド行い、4ラウンド目には原稿を見ずに説明できることを目指す。 |
| | 【ねらい】補助があれば生徒が自分で質問をすることができる。 | | |
| | グループワーク | グループ内で選出された1名が発表を行い、生徒同士で質疑応答を行う。 | 「総合的な探究の時間」で学習したインタビューの方法を利用し、質疑応答を続けられるよう、ハンドアウトを用いて補助する。 |
| まとめ | 振り返り | 個人で振り返りを行う | ・適宜机間巡視を行う。 |
| | 次回の予告 | | |